

## 平成 28 年度第 3 回ルール委員会議事録

開催日時 : 2017 年 3 月 4 日(土) ~ 5 日(日)  
開催場所 : 豊田自動織機海陽ヨットハーバー内会議室  
参加者 : 増田委員長、大村副委員長、前園副委員長、松原事務局長、柴沼委員、川北委員、  
日下部委員、田中委員、桜井委員、山口委員、高野委員、富田委員、佐藤委員、木内委員、  
石川委員、加藤委員、古川委員、南原委員、黒木委員、周東顧問委員  
計 20 名 ※順不同

### 1. <審議> IJIU 推薦候補選定基準改定

- ・ 申請期限や委員会開催期日などの日程整合性確保、推薦基準の曖昧性排除、および ISAF の名称変更に伴う改定について審議され、満場一致で承認可決された。今後、来年度の JSAF 理事会にて審議予定。
- ・ 推薦委員会委員の構成を利害関係の観点で厳格化すべく改定すべきとの提案があったが、については他レース・オフィシャルズの委員会との整合を図るべく協議し、別途提案することとなった。

### 2. <報告> 電子版ルールブック発行進捗状況

- ・ 電子書籍販売の検討について現状の報告がされた。利用者個々の利便性確保と在庫リスク軽減の観点で、電子版と共に発行を予定している印刷物のオンデマンド印刷に期待がかかったが、検討した結果、現行価格を大幅に上回ることが判明した。
- ・ 同時に、RRS 電子版発行に向けた形式、作業についての確認がなされた。

### 3. <審議> CaseBook, CallBook 発行形態

ケースブック、コールブックス、マニュアル類の発行形態について下記の提案がされた。

- ・ 電子版を WEB で無料公開することと、製本（印刷物）を JSAF ルール委員会からのプライベート販売とする提案が出され、JSAF 収益への変動や電子版とすることによるジャッジ・スキル維持、およびジャッジ/アンパイア資格更新要件である所持確認などの意見について意見が出された。
- ・ 審議の結果、発行形態について電子版と印刷物の両方を発行していくことで満場一致を持って可決された。但し、販売価格や所持要件については別途協議することとなった。

### 4. <協議> DPI ポリシーのガイドライン作成について

- ・ DPI ポリシーの国内ジャッジへの理解・浸透が十分ではないことが、ジャッジ更新講習内で発覚したことを受け、ルール委員会としてガイドライン作成と公開の是非について協議された。
- ・ DPI ポリシーのガイドラインは WS\_Web から入手できると RRS に記載されているので、JSAF としてそれを翻訳し公開することに異論はないものの、別途クラス規則にて規定されているものがあるなど、確認を促すための注意書きが必要との意見が出された。
- ・ 本件は、ジャッジ小委員会にて、注意事項の追加や、関連する WS 文書（例：Jury の internal policy）の同時公開という形で進めていくこととなった。

### 5. <報告> ケース研究

今年度遭遇ケースの共有と判断のポイント、新規則の理解確認等を目的に、委員からいくつかケースが紹介された。

- ・ 予告信号直前のコース掲示変更による抗議・救済要求に対する中止判決のケース
- ・ RRS15 違反のケース（RRS21 が D 節に移設されたことによる、規則の整理）
- ・ 抗議有効性、RRS2 適用是非と適切なペナルティー（DSQ or DNE）に関するケース
- ・ 風速上限について SCIRA 規定との整合と規則 87 についてのケース
- ・ 被抗議艇が提出した抗議書のケース

## 6. <協議> 国際大会へのジャッジ参加推薦基準について

2020 東京オリンピックに向けて国内での国際大会が増える中、IJ 育成において大きなチャンスであるため、ジャッジ及びセクレタリを JSAF\_HP にて大会毎に公募する基準が提案され、以下のような意見が出され協議された。これらの意見を踏まえて提案を見直し、別途メール審議の後、JSAF 理事会にて報告後、運用していくこととなった。

- ・ 規則 N1.2 が改定され、インターナショナル・ジュリーとセクレタリの兼務禁止が削除されたことから WS が IJ とセクレタリについてどのような運用を想定しているのか確認を要す。
- ・ ジャッジ等の任命は主催団体の権限であり、主催団体から JSAF にジャッジ等の推薦・派遣依頼があった場合に限定される旨の追記が必要。
- ・ 現職の IJ/IU も推薦対象に含むべき。
- ・ 推薦のための委員会を設立するなど、ルール委員会として推薦できるよう、決定者はルール委員長にすべき。
- ・ ジャッジを除くレース・オフィシャルズの担当委員会との整合については、職務と運営が異なることや、特にレース委員会は独自に準備を進めているため、必ずしもきっちりした整合を図る必要はない。

## 7. <報告> 小委員会活動報告

### 7.1 ジャッジ小委員会

- ・ NJA/NJB 資格更新認定講習会等の実施および更新者数の報告がされた。
- ・ 普及指導委員会の義務研修報告について各委員会での管理を行う変更予定との連絡がされた。

### 7.2 IJ/IU 育成小委員会

国内の国際大会への海外 IJ 招聘/日本人 IJ 候補の派遣、IJ セミナー、JSAF 他委員会主催事業の支援等の報告がされた。

### 7.3 アンパイア小委員会

- ・ NU 資格更新講習会報告・予定、関連文書改訂、付則 C の説明会、NU 認定講習会予定、マッチレース・チームレースの開催予定の報告がされた。
- ・ NU 資格更新のためのチームレース開催が、NJNU 規程にあるルール改正後 6 か月以内の更新が実質的に困難であるため、この場で NJNU 規程改定の緊急審議が発議され、改定のための文言については正副委員長に一任とし、規程改定については満場一致で承認された。

### 7.4 規程管理小委員会

- ・ JSAF 規定、WS 規定の修正、日本語訳、正誤表等の報告がされた。
- ・ 昨今の WS 規程は、懲戒やアンチドーピングなど極めて専門性の高い用語が多く、ルール委員会のみが翻訳する体制に疑問が投げかけられた。本件については、今後、他委員会とも協業していく体制とするなどの課題

を認識し、来年度以降具体的に体制作りを検討していくこととなった。

#### 7.5 外洋小委員会

ルール改正関係の報告、付則 WP（ウェイ・ポイント）の翻訳状況、オフショア・レースオフィサーの検討等の報告がされ、付則 WP の翻訳については、1 週間以内を目途に委員が確認することとなった。

#### 7.6 普及小委員会

指導者・選手向けルール講習会の報告、外洋関係向けのルール講習会等の報告がされた。伝える内容が講師により大きく異なる可能性が指摘され、JSAF ルール委員会としての伝えるべき内容を含めた軸や指針を統一すべきとの意見が出された。来年度に向けては、講師経験者を集めて意見集約をする機会を設けること、計画時点で伝えるべき事項や指針等を明確にしなければならないとの意見が大勢であった。

#### 8. <報告> 平成 29 年度事業計画

事業計画及び予算編成の報告がされた。

#### 9. その他

- ・ 規則 T2 等、日本語訳の訂正（正誤表の発行）について、調停の運営方法の確認を交えて報告がされた。
- ・ オリンピックのルールアドバイザーなど、オリンピック強化委員会との協業必要性について、前園副委員長がオリ強との兼任としてリーダーとなって活動していく旨の報告がされた。
- ・ カイト、オフショア、ハンザワールド、オリンピック、パラリンピック、RRS42、アジア選手権大会等、World Sailing や ASAF の状況について報告がされた。

以上